

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：国際収支（2006年4月）

発表日：2006年6月12日（月）

～貿易収支の大幅減少により経常収支は3ヶ月ぶりに減少～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 徳永香奈

TEL: 03-5221-4549(DI)

E.mail: tokunaga@dlri.dai-ichi-life.co.jp

		原数値 経常収支				季調値 経常収支			
		貿易・サービス収支			所得収支	貿易・サービス収支			所得収支
		貿易収支				貿易収支			
		前年比	前年比	前年比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比
04	1-3月期	43.2	82.9	42.3	9.9	11.8	14.5	7.3	5.1
	4-6月期	20.3	25.3	32.8	13.1	▲ 2.2	▲ 8.8	▲ 3.6	8.2
	7-9月期	6.7	10.7	10.5	3.7	▲ 0.4	▲ 0.1	▲ 4.2	0.6
	10-12月期	6.4	▲ 7.2	▲ 9.3	25.6	▲ 3.3	▲ 12.8	▲ 10.4	7.3
05	1-3月期	▲ 8.1	▲ 23.0	▲ 21.4	14.5	▲ 1.0	4.4	2.8	▲ 1.6
	4-6月期	▲ 9.8	▲ 30.4	▲ 29.7	18.4	▲ 5.4	▲ 30.3	▲ 24.7	14.3
	7-9月期	▲ 1.5	▲ 35.2	▲ 31.7	28.5	4.4	▲ 2.8	▲ 6.1	4.9
	10-12月期	13.6	▲ 8.2	▲ 18.6	30.1	20.8	30.7	10.0	12.7
06	1-3月期	14.2	▲ 22.1	▲ 27.3	40.4	▲ 8.8	▲ 18.0	▲ 5.1	4.5
05	4月	3.9	▲ 2.4	▲ 7.1	15.2	1.9	▲ 31.1	▲ 20.0	27.3
	5月	▲ 18.6	▲ 63.5	▲ 60.8	27.6	2.8	13.2	▲ 2.6	▲ 3.2
	6月	▲ 14.6	▲ 22.4	▲ 24.4	3.5	5.5	8.2	10.5	2.2
	7月	3.2	▲ 20.2	▲ 21.8	24.2	▲ 4.7	▲ 16.0	▲ 13.2	1.3
	8月	▲ 16.1	▲ 93.3	▲ 69.4	28.1	4.5	11.1	3.4	1.4
	9月	6.1	▲ 19.3	▲ 20.8	33.7	5.1	▲ 4.5	▲ 0.5	7.1
	10月	7.3	▲ 20.8	▲ 29.7	45.7	12.8	33.5	1.0	5.9
	11月	17.3	16.7	▲ 0.8	11.4	▲ 9.2	▲ 10.9	11.0	▲ 11.1
	12月	16.1	▲ 9.9	▲ 16.8	39.6	27.6	16.4	2.1	29.1
	1月	▲ 7.5	赤字	赤字	33.6	▲ 22.5	▲ 26.3	▲ 20.1	▲ 10.6
	2月	6.2	▲ 13.1	▲ 10.9	29.7	3.3	15.0	29.4	▲ 3.4
	3月	32.8	3.8	▲ 6.0	56.9	4.8	▲ 13.8	▲ 14.5	16.5
06	4月	▲ 20.2	▲ 65.0	▲ 33.9	12.8	▲ 32.8	▲ 74.7	▲ 38.3	▲ 14.5

（出所）財務省「国際収支状況」

○ 貿易黒字の大幅な減少により、経常収支は前年比▲20.2%と3ヶ月ぶりに減少

4月の経常黒字額は前年比▲20.2%の12,823億円（原数値）と3ヶ月ぶりに前年比マイナスに転じ、事前の市場コンセンサス（17,568億円、前年比+9.3%）を下振れる結果となった。内訳を見ると、貿易黒字が前年比▲32.4%と大幅に減少した一方、所得収支は同12.8%と増加した。貿易黒字の減少については、4月下旬に原油価格が一段と上昇した影響により、輸入金額が前年比+23.2%と大幅に増加していることが主因である。輸出に関しては同+11.4%と引き続き堅調に推移しており、貿易黒字の縮小について過度に悲観する必要はないだろう。一方、所得収支については、前月の大幅な増加（前年比+56.9%）から伸びが縮小した。前月は年度決算の期末であったため、配当金・配分済み支店収益、再投資収益の受取や配当金、債券利子の受取が通常月より大きかった。今月の振れはその反動という面が強く、所得収支が増加基調で推移していることに変わりない。

○ 先行きも所得収支黒字の増加が貿易黒字の減少を下支える構図が持続

貿易収支の先行きについては、足元の原油価格がWT I 原油先物価格で1 バレル 70 ドル前後と高止まりしていることから、5 月以降も引き続き縮小が続く可能性が高い。しかし、アジアや米国などの海外経済の好調さを背景に、輸出の回復基調は鮮明になってきている。夏場以降、海外経済の減速が予想されることには留意が必要であるが、足もとで急激に上昇している原油価格が落ち着いてくれば、貿易収支の縮小にも歯止めがかかると予想される。

所得収支については、①海外子会社の業績好調等を背景に直接投資収益の受取額の増加が続いていることや、②保有外国証券の残高累増、金利上昇による利子の受け取り増加を背景に、証券投資収益が増加していることなどにより、黒字額の拡大傾向が続いている。

今月は予想に反して経常収支は前年比マイナスに転じる結果となったが、貿易黒字の縮小を所得収支の増加が下支えするという構図に変化はなく、先行きについても同様の構図が続くと予想される。

